

平成29年度黒潮町総合防災訓練

黒潮町総合防災訓練が9月3日(日)、町内全域で実施されました。南海トラフ地震による大規模災害を想定し、災害時における避難経路、避難場所の確認など、防災に関する意識を各自が高める目的で行われました。

午前8時に緊急地震速報放送訓練が始まり、地区の避難場所に避難する住民避難訓練後、自主防災組織による自主訓練で、各地区で勉強会や救護訓練、防災器具の点検などが行われ、町民約4300人が参加しました。

佐賀地区津波避難タワーに避難した住民は、「ひざに不安があるが、スロープは上りやすく5分でのぼれた。いざという時に助け合えれば」と避難の経路を確認しながら訓練に取り組んでいました。



佐賀地区津波避難タワーに避難する人々

津野町小学生ら津波避難を体験

津野町の小学校3校が8月31日(木)、黒潮町で防災学習を行いました。

今回の学習は、長期宿泊体験活動の一環で、津野町にある葉山・中央・精華小学校の5年生が3泊4日で黒潮町を訪れ、そのプログラムの一部として計画されたものです。

41人の児童らが幡多青少年の家の防災学習を終えた後、佐賀地区の避難タワーを訪れ、その後大和田山の避難場所へ避難訓練を行いました。

海拔24mにある避難場所まで駆け上がってきた児童らは、「津波が来た時に逃げる人たちの大変さがわかった」、「海から遠いと感じるけど、こんなところまで津波が来るんだなと思った」など、初めての気づきを口にしていました。



3校ともに年に3回ほど防災訓練を行っているというのですが、津波浸水区域外のため、津波から逃げる訓練は今回が初めてだったということです。

サッカー合宿で避難訓練

土佐西南大規模公園で開催された「クラブユースキャンプ」に参加した県内外の中学生、約200名が8月12日(土)、津波避難訓練を行いました。

同キャンプは、8月11日(金)13日(日)の日程で、高知県や愛媛県、静岡県などから9チームが参加しました。競技力の向上に加えて、防災意識も高めてもらおうと、公園の指定管理者であるNPO砂浜美術館が企画して行われました。

参加した中学生は、サッカー場で避難行動の説明を受けた後、1キロ離れたコウジン山まで走って避難しました。静岡県のアスルクラロ伊豆に所属する選手は「地元小学校でも津波や地震の勉強はするけど、サッカー中の避難訓練はじめて」と話していました。また、山から見える景色に感激した様子で、自然の中で行われた防災訓練を楽しむとともに、防災に対する意識を新たにしています。



大声で叫ぶ選手たち

黒潮町土曜夜市

8月19日(土)、町役場本庁舎前で黒潮町土曜夜市が開催され、約1000人が来場しました。

町長の挨拶の後、大方中学校吹奏学部による生演奏や、幡多舞人のよさこいやカラオケ大会、お楽しみ抽選会などが行われ、会場を盛り上げました。

主催の黒潮若手の会は「町民の親睦を深め、町のにぎわいと活気をつくりたい。新庁舎に移転する前の記念に」との思いから夜市を開催しました。

来場者からは「現在の庁舎が建設された頃から知っているが、こんなににぎやかなのは初めて。役場も喜んでいるようで嬉しい」との声や「こんなに沢山の人が集まると思っていなかった。町の活気に感動した」などの声が聞かれました。



夜市を楽しむ人々